

249 骨外病変への<sup>99m</sup>Tc-P化合物の集積

昭和大学病院, 放

前田陽一, 本田実, 高橋吉政, 徳永宏司

長谷川一彦, 志村秀夫, 北原隆, 菱田豊彦

骨シンチグラムは1971年, Subramanianらが<sup>99m</sup>Tcリン酸化合物の利用を発表して以来, 各種骨疾患の診断に欠くことのできない検査となっている。今回, われわれは骨シンチグラムを施行して, 明らかに骨外に異常集積をみた症例について報告し, 若干の検討を加えた。昭和52年以来, <sup>99m</sup>Tcリン酸化合物による骨シンチグラム施行250例について手技ミス等が考えられる肝臓出例を除く, 明らかに骨外に異常集積をみた8例について検討した。症例は, neuroblastomaのtumorへの集積1例, 胆のうへの集積2例, breast caのtumorへの集積1例, 放射線治療後のlung-fibrosisへの集積1例, 甲状腺への集積1例, rectum caのspinal cord metastasisへの集積1例, nephrectomy後のope, scarへの集積1例の合計8例である。

一般的に腫瘍組織のmetaplasiaやosteoblastic-activityが起った場合にcalcificationが生ずると云われている。その場合<sup>99m</sup>Tcリン酸化合物が集積しても不思議ではないと思われる。soft tissueのneoplasmにリン酸化合物が集積するという報告があるが, neuroblastoma, breast caのtumor, rectum caのmetastasisへの集積の症例は, このような機転が働いているかもしれない。又, 胆のう集積については, 以前に報告がなく, メカニズムは不明であるが, 何らかの病的原因で胆汁への排出があったと考えられる。病態的に考えて, <sup>99m</sup>Tc-リン酸化合物の集積はcalcificationと関連を持つが, necrosisの中のCaのdepositionがある時に<sup>99m</sup>Tc-リン酸化合物の集積する可能性があるということを示唆する論文もある。又, noncalcificationのものでも, collagenが出てくることにより<sup>99m</sup>Tc-リン酸化合物の集積があるのだろうという報告もある。放射線治療後のlung fibrosis及びnephrectomyの症例はこうしたメカニズムが考えられる。現在, 骨外集積のメカニズムは必ずしも正確に説明されていないが, われわれは経験した8症例について, 臨床的検討を加えて報告する。

## 250 脊椎における骨シンチグラムの異常集積と非腫瘍性病変について

国立がんセンター 放診

小山田日吉丸, 照井頌二

同, 整形

福岡久俊

担癌患者の全身骨シンチグラムは, 病勢の進展についての判定や治療方針の決定, 更には臨床病期分類などにも有益な情報を提供してくれるため, その有用性は高く評価されている。しかし, 骨折・炎症性病巣・変性性変化などにも集積するため, はやまった放射線治療などは厳に慎まなければならない。

前回の本学会で, われわれは担癌患者の脊椎に発見された異常集積の臨床的意義について述べ, 担癌患者といえども脊椎への集積を直ちに転移と判断することは危険であると発表している。

もし, 集積が非腫瘍性変化によることがシンチグラムのみから判定できれば臨床家にとって大変都合であるといえる。われわれは, 剖検所見や数年間に及ぶfollow-up dataと, 脊椎のシンチグラム像を対比し検討することによって, 場合によっては良性病変を転移によるものからある程度区別することが可能と考えられるに至った。つまり, disc degenerationにおける座ぶとん様集積とか, Spondylosis deformansにおける不整像あるいはもやもや像などがあげられる。もちろん変性性変化が高度で, 硬化が椎体全体に及んでいる場合には, シンチグラムのみからの鑑別はほとんど不可能である。

われわれの経験した症例の中から興味ある像を呈示する。